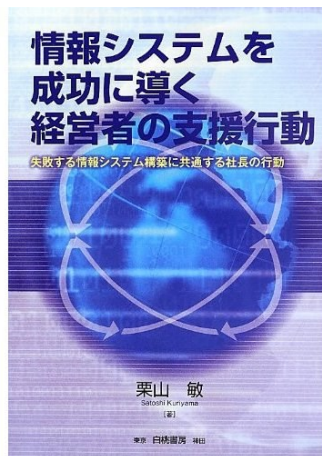


プロジェクトは「社長」で失敗する！

< 図表集 >

【第1回】

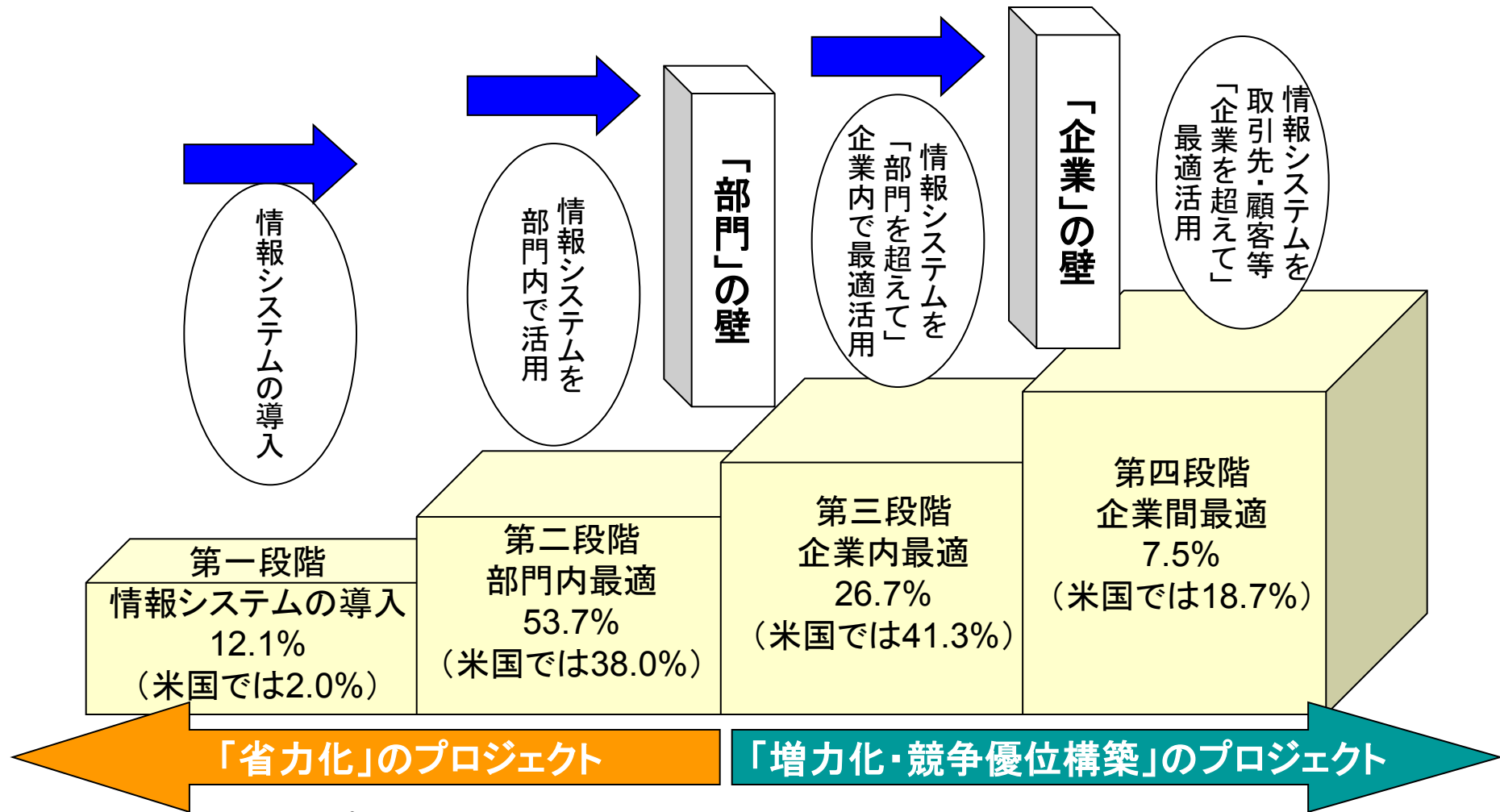


武蔵大学総合研究所 奨励研究員
元・日本アイ・ビー・エム株式会社
栗山 敏

●「情報システムを成功に導く経営者の支援行動」
～失敗する情報システム構築に共通する社長の行動～
栗山敏著、2013年7月24日発売、白桃書房

プロジェクトの量的・質的変化がもたらす難易度の上昇

- 部門のシステムから企業間のシステムへ(大規模化)
- 業務改革が前提となる情報システム構築(複雑化、不確実性の増大)



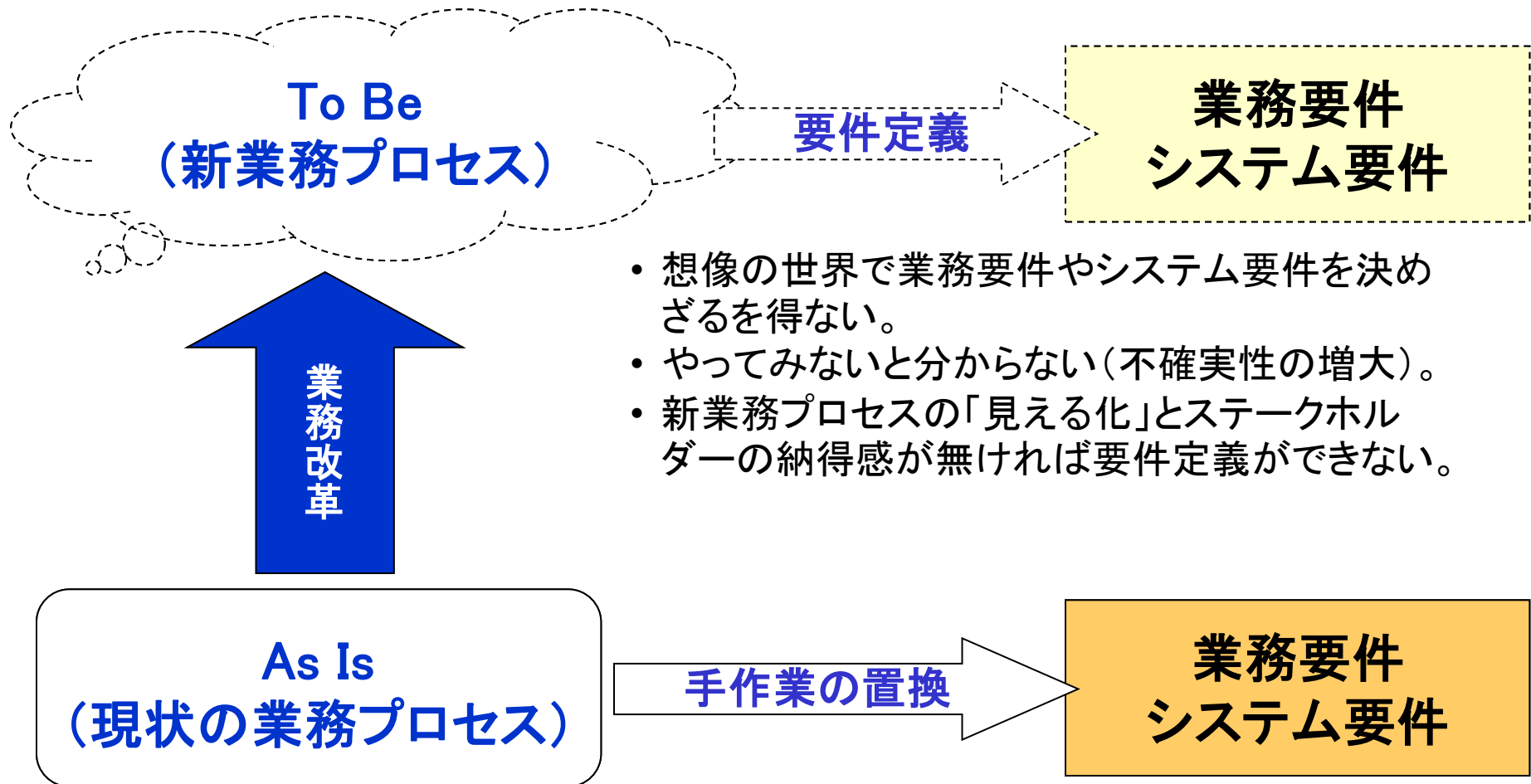
プロジェクトの量的・質的变化

- プロジェクトの難易度が高まる。
- 経営者の関与の必要性が高まる。

比較項目	第一段階	第二段階	「部門」の壁	第三段階	「企業」の壁	第四段階
	情報システムの導入	部門内最適		企業内最適		企業間最適
目的	省力化、自動化		…	戦略目的の達成、競争優位の確立		
規模	比較的小規模		…	比較的大規模		
業務改革の要否	基本的に不要		…	多くの場合に必須		
不確実性・リスク・難易度	比較的低		…	比較的高		
プロジェクトの特性	情報システム構築プロジェクト		…	情報システム構築を伴う経営改革プロジェクト		
経営者の関与の必要性	基本的に不要		…	多くの場合に必須		

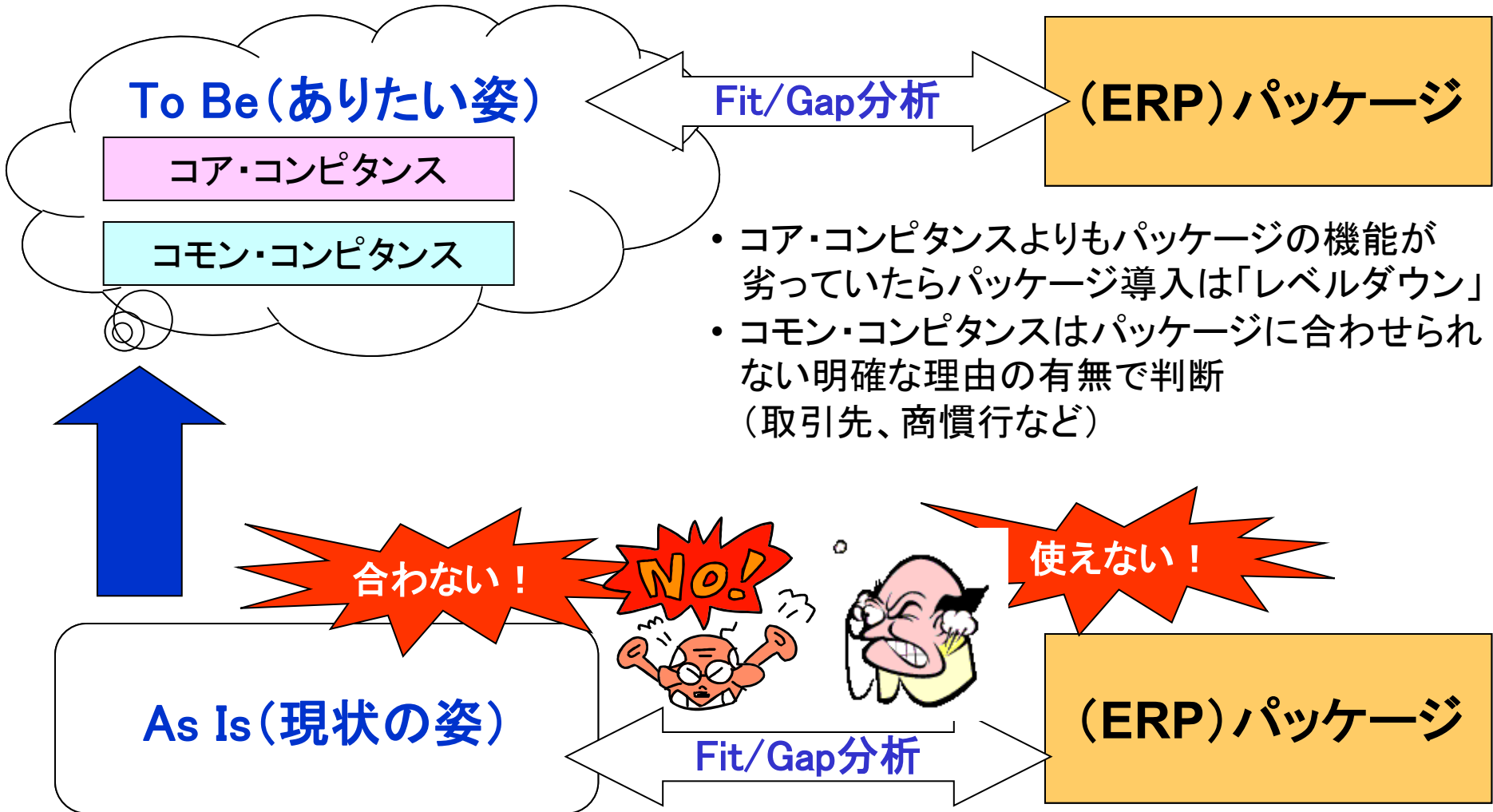
業務改革を伴う情報システムの要件定義が困難な理由

業務改革後の業務プロセスは誰も見たことが無い。
それをシステム化するって…？



ERPパッケージの導入が難航する理由

目的は「ありたい姿」の実現だったはず。それは明確だったか？



ERPパッケージ: Enterprise Resource Planning (統合基幹業務システム)